



東京千代田区富士見
日本歯科大学新聞
発行兼 中原 泉
編集日 偶数月末日
発行部 1部10円
編集室 (〒951-8580)
新潟市中央区浜浦町1-8
☎025(267)1500



本学のシンボルマーク

平成26年

入学試験を施行

両学部部の合格者発表
東京短大、新潟短大の入学試験も

平成二十六年度の日本歯科大学入学試験は、一月中旬のセ
ンター試験と二月初旬の本学試験をもって東京で施行し、
両学部部の合格者を発表しました。本年も同一試験日に生命歯学
部と新潟生命歯学部との受験と併願が可能となる「全学部
入試」を実施した。あわせて東京短期大学と新潟短期大学
の入学試験が行われた。

平成二十六年度の入学試験と、本学で実施する一
般選抜入学試験の二本立
るセンター試験は一月
十八十九日の両日、全国



試験開始30秒前、緊張した面持ちの受験生たち(3月2日・東京)

オープンキャンパス2014

~どなたでも参加できます!!~

☆生命歯学部☆
5/25(日), 7/24(木), 8/7(木),
8/23(土), 9/28(日), 11/1・2(日・月)

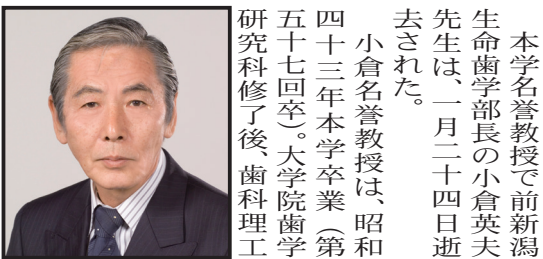
☆新潟生命歯学部☆
5/10(土), 6/14(土), 7/12(土),
7/26(土), 8/23(土), 9/14(日), 11/8(土)

※詳細は両学部のHPをご覧ください

の試験会場で一斉に施行
され、本学の両学部も試
験会場となった。
本学では本年も、同一
試験日に両学部部の受験と
併願が可能となる「全学
部入試」を一般選抜入試
とセンター利用入試で実
施した。
一般選抜入学試験の
前期試験は、生命歯学部
(東京)において、英語・
数学・理科三科目の学
力試験と面接試験を二月

追って、一般選抜後
試験(学力・面接)は三
月二日に、センター利用
後期試験(面接)は三月
十七日に、いずれも生命
歯学部(東京)において
「全学部入試」をもって
実施した。
なお平成二十七年一
般選抜試験の学力試験科
目は①英語が必須②数
学・国語・物理・生物・化
学から二科目が選択とな
る。本年八月発表予定の
入試要項に詳細を掲載す
る。
また東京短期大学では
歯科技工学科と歯科衛
生学科の一般A入学試
験(学力・面接)を一月
二十六日に実施し、一般
B入学試験(学力・面接)
を三月八日に実施した。
新潟短期大学では、歯
科衛生学科の一般選抜試
験(学力・面接)を一月
二十五日に実施した。

辞令
歯学部博士 筒井 健機
名譽教授の称号を授与する
新潟短大
学部長 又賀 泉
生命歯学部口腔外科学講
座併任を命ずる
大学院生命歯学研究科の
担当を命ずる(口腔外科
学)
略歴・昭和50年3月本学
卒業(第64回卒)。同年6
月本学新潟歯学部口腔外
科学教室第二講座助手、
54年4月講師、60年4月
助教授を経て、平成7年
11月教授に就任、21年4
月講座統合により、口腔
外科学講座主任教授、24
年10月新潟短期大学学長
に就任。
平成二十五年十二月一日
教授 田中 彰
新潟生命歯学部口腔外科



小倉名譽教授(新潟・理工)逝去
本学名譽教授で前新潟
生命歯学部部長の小倉英夫
先生は、一月二十四日逝
去された。
小倉名譽教授は、昭和
四十三年本学卒業(第
五十七回卒)。大学院歯学
研究科修了後、歯科理工
学助手、新潟歯学部講師、
助教授、新潟短期大学教
授を経て、平成七年教授
に就任。昨二十五日三月
に退職するまで、十七年
余にわたり新潟生命歯学
部歯科理工学講座を主
宰した。十四年から学校
法人日本歯科大学理事、
二十年から新潟生命歯学
部部長を務めた。
なお故人の遺志により
葬儀告別式は、近親者によ
る家族葬で行われた。

多摩クリニック、新聞各紙の全国版特集記事に

ダウン症児の食事応援

毎日新聞2013年10月28日夕刊
「ダウン症児の食事応援」



摂食機能障害改善へ
医師向けに指導計画

日本歯科大
「ダウン症児の摂食機能障害改善へ
医師向けに指導計画」
日本歯科大学は、ダウン症児の摂食機能障害改善を目的として、医師向けに指導計画を作成し、全国の病院に配布することを発表した。
この計画は、ダウン症児の摂食機能障害の原因や特徴、治療法などをまとめたもので、医師が患者さんへの指導に活用できる。また、ダウン症児の摂食機能障害の現状や治療法についても紹介している。
この計画は、全国の病院に配布される。興味のある方は、日本歯科大学に問い合わせる。
【編者：一、写真も】

ダウン症
23対・46本ある染色体のうち、21番
染色体が1本多い本ある染色体異常
によって発症する。知的障害のほか、心臓な
どに先天性の異常があることが多く、合併
症は個人差がある。平均8000~10000人
に1人の割合で生まれるとされる。
日本歯科大による分析し、食事のとり方
を指導する必要がある。だが、対応できる
は少ない。口の筋力 医療機関は全国に20
が弱いことから食べ物 0~3000カ所しか
をうまくとれない。
動かしにくい。
動きやペース、状態の食
べ物しかれない。
すも少なくないとい
い。これを改善するた
めには、歯科医師や医師
らが一丸となって、全国
で初めて「口腔リ
ハビリテーション多摩クリニッ
ク」を開業し、ダウン症児
を連れて神戸市から通
う女性は「4月から通
い始め、離乳食を吐き
出す食へられるよう
になった。プログラム
があれば、専門施設が
少ない地域の子供を
出すのを助けて、少
児の親も安心して子育
てできるのでは」と期
待する。
クリニックには専門
的な治療を求めて、西
からも患者が来訪。そ
の田村文書教授は「ダ
ウン症児の摂食機能
障害は年長になるほ
ど改善していく。
適切な指導を受けられ
るよう、プログラム
を作成して、一日も
早くプログラムを完成
させたい」と話してい
る。

産経新聞2014年1月23日朝刊

◀胃ろう回避へ口腔リハビリに注目▶

社会保障

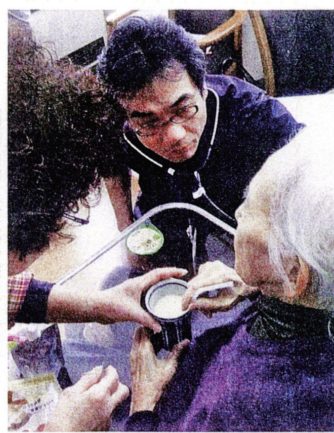
「ほんの少しでも口から食べたい」「もう一度、口から食べたい」。胃に管で直接栄養を送る「胃ろう」に疑問の声が高まっている。年齢や疾患によって食べる機能には差があるが、再び口から食べるようにしたいという声も少なくない。佐藤好美

東京都小金井市にある「日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック」は、昨年10月に開設された。歯科医で院長の菊谷武・日本歯科大学教授は「一口から食べる」治療を外来と訪問で行う。患者は開設後1年で約1500人に上った。

診察ではまず、患者の「かむ」「飲み込む」機能を評価する。そのうえで食べ物について、どんな形状が必要か、どんな姿勢で食べさせるか、などをアドバイスする。1人暮らしの患者には機能以外の要素も考慮する。「スプーンで魚の煮付けを煮るなら、ムリな



胃ろう回避へ口腔リハビリに注目



乳酸菌飲料を飲む要介護の女性を診察する菊谷院長。東京都三鷹市。

「ほんの少しでも口から食べたい」「もう一度、口から食べたい」。胃に管で直接栄養を送る「胃ろう」に疑問の声が高まっている。年齢や疾患によって食べる機能には差があるが、再び口から食べるようにしたいという声も少なくない。佐藤好美

東京都小金井市にある「日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック」は、昨年10月に開設された。歯科医で院長の菊谷武・日本歯科大学教授は「一口から食べる」治療を外来と訪問で行う。患者は開設後1年で約1500人に上った。

診察ではまず、患者の「かむ」「飲み込む」機能を評価する。そのうえで食べ物について、どんな形状が必要か、どんな姿勢で食べさせるか、などをアドバイスする。1人暮らしの患者には機能以外の要素も考慮する。「スプーンで魚の煮付けを煮るなら、ムリな

飲料を飲む音を聴診器で聞く。生活に合う食品や入手方法がある。という。

この日は、東京都三鷹市に住む要介護4の女性(89)宅を訪れた。家族は「99宅を訪れた。家族は食事量の激減を訴えた。『すく』『要らない』と『すく』を繰り返して。昨日の朝はペースがゆと卵豆腐、厚揚げ、ササミで半量。夜はお粥を3分の2。食欲が落ちたら、いつもよりうすくするようになって。」「

菊谷院長は女性が乳酸菌飲料を飲む音を聴診器で聞く。生活に合う食品や入手方法がある。という。

「介護食」市場規模とニーズに乖離

藤田保健衛生大学の東口高志教授の監修で、イーエヌ大塚製薬が在宅介護を行う全国1000人に行った調査では、介護の必要な人が笑顔を見せるのは「話し相手をしたとき」(51%)に続いて、「何かを食べるとき」(41%)が挙がった。

ただ、要介護の状態が重くなるほど食べさせることに介護負担も増す。「家族と同じもの(常食)を食べる」割合は、要介護5では17%に落ち込む。しかし、市販の介護食品がうまく取り入れられているかどうかは定かでない。民間シンクタンクの調べでは、現在の介護食品市場は1000億円だが、要介護者数などから試算される介護食品のニーズは2兆5000億円と乖離がある。個々の家庭では、介護食の選び方や入手方法で分からない点が多いとみられ、課題は多い。

村上一枝先生(五十四回卒) ソラプチミスト社会貢献賞受賞

長年にわたりアフリカのカラ自立支援活動にたずさわる本学五十四回卒の村上一枝先生に、このたびソラプチミスト日本財団から社会貢献賞が贈呈された。

ソラプチミスト財団は、管理職、専門職についている女性の世界的組織で、人権と女性の地位を高める奉仕活動を行っている。村上先生は、一九九二年に「カラ」西アフリカ自立協力を設立、現地の人たちの自立支援のために尽力していることが、今回の受賞となった。

第三十四回贈呈式は、

「口から食事」回復に診療報酬で評価へ

厚生労働省は平成26年度の診療報酬改定で、胃ろうの患者にリハビリを実施し、口からの食事ができるまでに回復させた医療機関に診療報酬上の評価を行う方針。どんな医療機関にどんな条件で実施するかは未定だが、安易に胃ろうにしたり、リハビリもせずに放置する現状を是正したい考えだ。

医療経済研究機構が胃ろうを作った病院に行った調査では、胃ろうにした患者の24%はその後リハビリなどで経口摂取に戻った可能性があった。

だが、介護保険施設に入所した胃ろうの患者で、胃ろうを使用せずに済むようになったのは2%。また、経口摂取に戻った可能性のある患者に、自院でも退院先でも嚥下機能訓練を実施しない医療機関は19%に上った。

昨年十一月十二日に新潟市の朱鷺メッセで開催され、全国から関係者二千五百名余が列席した。村上先生には、特に社会貢献賞の中でも日本財団の初代理事長の名を冠した最高の栄誉である「三嘉代子賞」が贈られた。

新潟病院口腔外科 佐久間助手受賞

本学名誉教授の佐藤田鶴子先生は、このたび平成二十五年日本歯科医学学会会長賞を受賞した。二月二十四日に開催された第九十一回学会評議員会において授賞式が行われた。佐藤名誉教授は、本学五十七回卒。

新潟病院口腔外科 佐久間助手受賞

久間要臨床助手が、第三十二回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会において、学術優秀ポスター賞を受賞した。受賞演題は、「口腔扁平上皮癌に対する抗CD133抗体療法」。

鴨井名誉教授の叙勲

本学名誉教授の鴨井久一先生は、昨年十一月の秋の叙勲で瑞宝中綬章を

表彰状を手にする佐久間助手

表彰状を手にする佐久間助手

表彰状を手にする佐久間助手

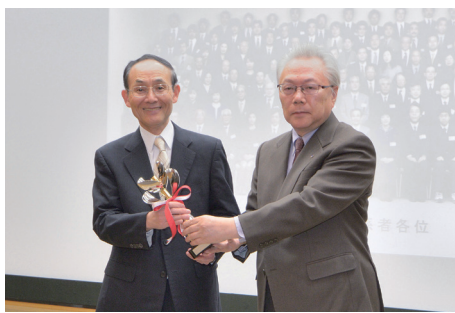
表彰状を手にする佐久間助手



表彰状を手にする佐久間助手

薬理学講座

(東京) 筒井教授 (新潟) 木村教授
最終記念講義



中原泉学長から筒井教授(左)に記念品が手渡された



新潟の薬理学講座メンバーに囲まれ、花束を手にする木村教授(中央右)

生命歯学部薬理学講座の筒井健機教授の最終記念講義は、昨二〇一三年十一月六日午後五時三十分より九段ホールで開催された。演題は「①細胞がん化の初期変化、②化学発がん研究、③フッ化ナトリウム研究」。

筒井教授は昭和四十三年三月本学卒業(第五十七回卒)、本学大学院

平成26年度 歯学会大会のお知らせ

◇日時:平成26年6月7日(土)10:30~17:00(予定)
◇会場:日本歯科大学生命歯学部 富士見ホール
◇メインテーマ「咀嚼による健康寿命の延伸」
※特別講演では、遺伝因子があっても食事でコントロールしうることを見出し、またWHOの協力を得て循環器疾患と栄養との関係について世界調査を行った家森幸京都大学名誉教授に食と健康について、講演していただきます。

大会長 志賀 博 (生命歯学部歯科補綴学第一講座)
問い合わせ:準備委員長 横山正起 (歯科補綴学I)
Tel 03 (3261) 8311 内線2470
e-mail: hotetsu1@tky.ndu.ac.jp

菅野教授の研究 ガーディアン紹介

生命歯学部小児歯科学講座の菅野洋行教授の研究が、イギリス「ガーディアン」紙で紹介された。記事は「Scared of the dentist? This is why say neuroscientists」の表題で、歯科用タービンの音に脳がどのように反応するかを解明することで、歯科治療恐怖患者の不安を和らげることに役立つという内容。

菅野教授は昨年十一月にアメリカ・サンディエゴで開催された北米神経科学会でポスター発表を行った。ガーディアン紙は一八二二年に創刊され

歯科衛生士のための インスツルメンテーション

解剖学的ポイントと臨床ケースからわかる
納得のテクニック

著 小森朋栄(東京短期大学非常勤講師)・塩浦有紀, ほか

執筆協力 高橋英登・花村裕之・遠山佳之, ほか

■インスツルメンテーションに役立つ歯根形態の解剖学的ポイントを部位別に解説。
■実際の臨床例から、インスツルメンテーションの詳細な操作を豊富なビジュアルイメージで図解。

A4変判・112頁・オールカラー
定価(本体3,700円+税)

株式会社ヒョーロンパブリッシング 〒101-0048 東京都千代田区神田町2-9-3 第25中央ビル
Tel.03-3252-9261~4 Fax.03-3254-3876